

田中復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見録
(令和元年11月11日(月) 12:15~12:21 於) 山元町)

1. 発言要旨

私が大臣に就任を9月11日にさせていただいて、ちょうど2カ月がたったところでございます。今日は、多賀城市、利府町、松島町、山元町を訪問させていただいて、市長さん、町長さんなどの関係の方々への就任の御挨拶とあわせて、現地の実情の視察を行わせていただいたところでございます。

今回の視察では、地域の重要な産業であります観光業の拠点施設だとか、来年のオリンピックの会場となるスポーツ施設などを訪問させていただいて、市長、町長及び議長さんなどからも、復興の状況や現在の課題もお伺いをしたところでございます。引き続き、自治体とも連携を強くしながら、現場主義を徹底するとともに、被災地の皆様に寄り添い、被災地の復興に全力を傾けてまいりたいと思っております。

2. 質疑応答

(問) きょう午前中パッと回って見て、ちょっと時間が短かったかなという気がしたんですけども、ごらんになられて、いかがだったでしょうか。

(答) 各まちごとに、観光の人数がまだ回復し切っていない問題だとか、あるいはスポーツ施設の交通アクセスの問題だとか、これから人口が減少した中で、新しい生業、あるいはまちづくりを進めていく課題だとか、それぞれに違いがあるわけございまして、私も改めて災害の大変な状況だったこととあわせて、ここまで回復をしていただいた地元の皆さんの御尽力、御努力に敬意を表しつつ、まだ課題があるなど、このようにも認識したところでございます。これからも、重ねてお伺いをしてまいりたいと思っております。

(問) 大変な状況ということでおっしゃっていただいて、10年に復興庁の期限が延長されましたけれども、それでも、こちら5年ですよ。ちょっと台風の被害もあつたりとかして、短いのかなというふうに、被災した人間からしたら個人的に思うんですけども、そこら辺いかがですか。

(答) いろんな地域、自治体ごとに状況が違いますけれども、概ね岩手県と宮城県については、5年のめどで今後、細かいことについてはこれから取りまとめてまいりますけれども、一定の案を示しておるところでございます。

福島は御存じのように原発事故ということで、これから10年をめ

どとし、5年で1回見直しをするという状況の中で、財源も含めて対応していこうとするわけでございます。そういう中で、宮城県知事さんから、5年ということについて、いろいろとお話が出ております。事業ごとに私たちが細かく状況を見させていただいて、きめ細かく対応していきたい、このように思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

(問) 今、きめ細かくというようなことがありましたが、具体的に何かもっと、どう進めていこうかなというのがあったら教えてください。

(答) いずれにしても、多くの事業がございます。事業ごとに10年で一応終わりそうな事業もございますけれども、どうしてもこれからまだ継続していくものもあると思います。今の御質問にもありましたように、5年できちっとこれからおさまるかどうか。また、事業というのは、御存じのように、形をつくれればいいというものではなくて、期待をする事業の成果というものが、そこにあらわれているかどうか。特に生業の問題だとか、住宅の問題だとか、いろんなことがあるんだろうと思いますが、そういうことについては、これからいろいろとやっていく中で、きめ細かく対応していかなければならない、事業ごとにきちっと詰めてまいりたい、このように思っているということでございます。

(問) そうすると、5年という期間で区切るのではなく、その後も期待していいと見ていいですか。

(答) これは、今の時点で申し上げることは、なかなか難しゅうございますけれども、いろいろとその時点で十分いろんな方々の御意見を聞いたり、事業の様子を伺ったりということは出てくるんだろうと思っております。

(以 上)